

第4回小笠原諸島ネズミ対策検証委員会 議事要旨

日時：平成27年12月17日（木）15：30～18：00

場所：（父島）小笠原村役場2階会議室／小笠原村商工観光会館(Bシップ)
（竹芝）小笠原村役場東京連絡事務所会議室

出席者：議事概要参照

■委員の意見と対応

（兄島BSによる効果等）

- 保全エリアを設定し、ベイトステーションを設置して、一定の効果が得られているが、保全エリア以外では、陸産貝類のネズミによる被害が進んでいる状況であり、一番価値があるものは守れていないのが現状である。もう1点の問題は、対策のために多くの人が島に入ったことによる土壌侵食や植生へのインパクトが顕在化している。このベイトステーションによる対策を長期間続けることは難しい状況になりつつあると考えられる。以上より、今後、兄島全島での対策へと進めなければならないが、ベイトステーションで実施するには限界があるということを理解した。
- ネズミ対策手法の組み合わせを考えなければいけない。
- 様々なリスクはある中で、再侵入のリスクも必ずあり、その対策は、コストに含めて考える必要がある。
- 殺鼠剤を食べなくなるような、警戒心が強いネズミが出てしまう恐れがあるため、ベイトステーションで長期にわたって継続的に殺鼠剤を与えることはよくない。
- ベイトステーション設置によるネズミ減少の効果と陸産貝類回復状況について検証した内容を報告書に入れる必要がある。

（環境影響評価のための実証試験進捗状況）

- 土壌や水域への流出の実証試験のため、粒剤の物理的耐久性の情報が必要である。
- 抵抗性遺伝子が検出されなかったという試験結果であったが、将来的にもそうだとすることはなく、例えば、東京のネズミが侵入することがあるため、リスクはある。

（検証結果のとりまとめについて）

- ネズミの根絶が目的ではなく、陸産貝類の保全が目的であることを記載する必要がある。
- 影響評価を、何を対象に行うのかは（例えば、人間への毒性を評価するのか、生態系への影響を評価するのか）、委員会及び住民が何を知りたいかによって決める必要がある。
- ネズミ対策事業を実施するにあたり、第三者機関がチェックする、評価する者の責任を明確にするなどの体制づくりを検討すべき。
- 沖縄で、マングースの駆除のために環境省が不妊薬を開発中であり、うまくいけば哺乳類に対して、他の地域でも使える可能性がある。

- 過去の事業でネズミを根絶して、数年で再発見するまで目覚ましい変化があったことについて情報収集した方がいい。その時発生した稚樹が、現在も生き残っているなどプラスの側面があることをまとめてほしい。
- 検証事業を行ってきた成果として、緊急対策として環境影響に留意しながらベイトステーション設置をしてほしいと提言したこと、その結果を受けて、空中散布をする場合に留意してほしい事項につながられた。次のネズミ対策事業で、空中散布とその他の手法を組み合わせる際に、過去の経験を踏まえて検討をお願いするというのを最後にまとめたい。

■助言者からの意見

- 兄島でベイトステーションを設置して、一定の効果が得られたが、限界がある。空中散布だけでも限界があるため、人海戦術も含めて組み合わせる必要がある。
- 殺鼠剤メーカーには風に飛ばされないパックの開発を考えてほしい。ネズミの喫食が良くなるような工夫が必要である。
- 技術開発について、報告書にはもっと書き込んでほしい。不妊薬等の画期的な方法が必要である。
- 海に対する配慮が抜けていたことが住民が驚いた点であり、この点を丁寧に考えていることを書いてほしい。海流により溜まりやすい場所を把握することは非常に難しいため、なおさら海域に出さないことを前提とした方がいい。
- ノスリが、殺鼠剤を食べたネズミを何匹食べると影響が出るかは計算により、最悪のシナリオとしてわかることを期待する。同様に、オオコウモリや小型哺乳類も喫食試験だけではなく、指標が仮にでも提出されるとリスクについて考えることができるので、お願いしたい。
- 最終報告書の前に、委員へ生データや試験方法等の情報を提出してもらわないと評価ができない。
- 飼育個体への喫食試験では、畑や自然環境での餌の条件と異なる。上野動物園でアカガシラカラスバトが喫食したことについて、上野動物園のコメントをもらってほしい。
- 過去の実験で、ハトは大きなペレットは食べないということだったことも精査してほしい。
- 化学防除は事後リスクの管理をしっかり行うこと、住民への情報提供に間違いの無いよう再発防止に取り組むことが重要であり、報告書に盛り込んでほしい。海外では、小さい島でモデル地域を作って技術開発をしてから、その成果を大きな島に持っていくようにしている。今後どうするかという方向性は、技術的前提条件ではなく、技術開発が実際に求められていることであるので、次のステップに向けてどう組み上げていくかを整理して提言してほしい。

■傍聴者意見

- 住民説明会が形式的なものになっている。また、住民に意見を言わせるだけで、“ガス抜き”扱いられている。住民の意見が採用されなかった場合は、その理由を広報誌等で返すなどを実施すべきである。コミュニケーションの手法を改善し、丁寧な説明手順が必要であり、これらの具体的な整理が必要である。
- 西島も早めにベイトステーションの設置によるネズミ対策を実施するようお願いしたい。

- 手撒きの中でも人がやる場合と機械撒きの方法があるので、検討してほしい。

以 上